

令和6年度 第4回 大磯町子ども・子育て会議 会議録

1. 日 時 令和7年1月21日(火)
開会時間 午後1時15分 閉会時間 午後2時50分

2. 場 所 大磯町役場本庁舎4階第1会議室

3. 出席者

【委員】

成田 麻紀 委員
立花 ますみ 委員
望月 展弘 委員
松井 節子 委員
高橋 明子 委員
高橋 聡子 委員
芝 園枝 委員
加藤 敦子 委員
望月 真里子 委員
加藤 恭子 委員
金子 智紀 委員
石井 彩 委員
尾里 育士 委員 (会長)

【事務局】

齋藤 永悟 町民福祉部参事(こども政策・子育て支援対策本部担当)
小林 琢哉 子育て支援課長
高橋 正寿 子育て支援課副課長兼保育園・幼稚園係長
山下 優弥 子育て支援係長
竹内 茂高 子育て支援係主任主事

【欠席】

佐藤 和宏 委員

4. 傍聴者 4人

5. 議 題

- (1) 大磯町こども計画(案)について
- (2) 大磯町こども計画の答申に向けた協議について

6. その他

- ・大磯町こども計画の答申に対する手交
- ・今後のスケジュールについて

議題

(1) 大磯町こども計画（案）について

事務局から、「大磯町こども計画（案）」と「大磯町こども計画（やさしい版案）」の説明を行った。

<意見等>

【委員】

大磯町こども計画表紙デザイン募集作品（以下、作品）が本紙の空いたスペースに挿絵的に掲載されているが、18頁のように、記載例「こどもの権利と社会への参加の促進」の下に作品があると、記載例とイラストに関連があるように見えてしまう。本紙の合間にページ内容と関係ない作品があると、内容が途切れてしまうように感じるため、81頁のように作品をまとめて掲載してはどうか。

KPIについて、19頁以降で拡充施策には「拡」、新規事業には「新」とあるが、新規事業を行う理由がわかりにくい。現在、KPIとSDGsが紐づいているが、KPIは「めざす姿」と紐づけし、かつ、KPIの目標値を達成するための目玉となるような施策をわかりやすく記載してはどうか。

一方、順番や構成について、4つの「めざす姿」でまとめたことは良いと考えている。

【事務局】

作品の掲載方法については、全体のバランスを考慮し各頁に掲載した。見開いた時に視覚的に見やすくするために、生じたスペースを活用する意図であった。しかし、本紙の内容より作品が目立っている箇所があることで、内容が途切れているように見えてしまうようであれば、最終的なデザインを発行までに調整する。

KPIについて、4つの「めざす姿」を実現するためにKPIを設定おり、全ての「めざす姿」と各KPIと紐づくことになるため、本会議のご意見としてとどめさせていただきたい。目玉となるような施策については、現在、策定中の「実施計画」において記載していく。

【委員】

作品に「〇〇」と記載があるが、作品を描いたこどもの名前を記載するのか。

【事務局】

名前を掲載する方向で調整している。

【委員】

「こどもの権利」、4つの「めざす姿」、「基本目標」と様々な概念があり、各事業がどこに紐づいているのかがわかりにくい。各事業と「めざす姿」の紐づきについて、見せ方を工夫できないか。

【事務局】

最終的に見やすく工夫をしていきたい。

【委員】

KPIについて、「出生数」ではなく「18歳以下のこどもの数」に設定したことで、転入数を含めた目標設定となるため、良い視点であると考えている。KPIも評価しつつ、各事業も評価していくことになるが、どのように評価する予定なのか。

【事務局】

「実施計画」において事業評価と KPI の年度管理を行いたい。次回の会議である程度はお示ししたいと考えている実施計画については、当会議でもご意見があったように、会議開催の回数や事業実施の有無のみでの評価を行わないようにしたい。

【委員】

12 頁等、句読点が多く読みにくい箇所が散見されるが、修正できそうか。

【事務局】

句読点等は発行までに調整する。

【会長】

いただいたご意見を反映し、策定作業を進めていきたい。

(2) 大磯町こども計画の答申に向けた協議について

令和 6 年 9 月 20 日付「(仮称) 大磯町こども計画について (諮問)」に対する、答申内容の協議を行い、「(仮称) 大磯町こども計画について (答申)」を作成した。

【委員】

みんなの声に基づく「基本理念」や「めざす姿」の実現に向けて計画が策定されているため、答申の作成にあたっては、4 つの「めざす姿」を中心にまとめてはどうか。

また、主体性や自主性を持って行動するこども・若者を応援すること、今後も引き続き、こども・若者の声を聴きながら計画を推進することが重要であるため、これらの視点も踏まえて作成してはどうか。

【委員】

本計画の策定にあたり、様々な手法でアンケートやヒアリングを実施したが、回答した人が良かったと思っただけのように、回答した「声」が何らかの形で反映されるという視点を加えてはどうか。

【事務局】

4 つの「めざす姿」、こどもや子育て当事者からいただいた「声」の反映、これらの視点を踏まえて答申をまとめたい。

【会長】

本計画の周知について、事務局で何か考えていることはあるか。

【事務局】

町の情報コーナーやホームページでの発信に加えて、こどもたちには、学校を通じて電子媒体での周知を検討している。

【委員】

今回のように、実際にこどもたちから直接「声」を聴くことは、改めて大事なことであると感じた。来年度以降、こどもたちから直接「声」を聴く予定はあるのか。

【事務局】

こどもたちから直接「声」を聴く仕組みづくりは、検討していきたいと考えている。

【委員】

大磯高等学校では、1年生が大磯町のまちづくりについて、探究授業を実施している。直近2年間の探究授業は発表会も実施し、池田町長にも来ていただいていた。子育ても含めてまちづくりであるため、探究授業の発表会の時には、子育て支援課のどなたかにも来ていただいて、生徒の「声」の反映状況について、報告していただいても良いと考えている。生徒自身も自分たちの「声」が反映されたら喜ぶと思う。生徒の探究心を掻き立て勉強した内容を町に還元できると良いとも考えている。

【事務局】

実現ができれば良いと思うので、検討したい。

【会長】

教育保育の現場はかなり忙しいと聞いているが、そのような機会があれば良いと考えている。

委員からいただいたご意見で、計画案の12頁以降、「めざす姿」の「考え方」、「こども」では積極的に意見を表明できること、「保護者」では切れ目ない支援に関すること、「子育て環境」ではこどもが健やかに成長できること、「地域」では地域全体でこどもの成長を支えることの4つ、また、5つ目として、計画の推進や「声」の反映について、ご発言いただいた内容を基に、全5項目としてA4の表面1枚で答申書（案）を作成してはどうか。

【各委員】

異議なし。

【会長】

事務局は、答申書（案）の作成をお願いする。

休会

※事務局が答申書（案）を作成、その間は休会

再開

【会長】

事務局は、作成した答申書（案）の読み上げをお願いする。

【事務局】

《答申書（案）の読み上げ》

【会長】

事務局が読み上げた答申書（案）を本会議の答申書として良いか。

【各委員】

異議なし。

【会長】

答申書（案）を本会議の答申書とする。事務局は答申書の手交の準備をお願いする。

その他

- ・大磯町こども計画の答申に対する手交

尾里会長から池田町長へ「(仮称)大磯町こども計画について(答申)」の手交を行った。

- ・今後のスケジュールについて

事務局から、次回の会議は、計画(製本版)の配布、概要版・実施計画の提示等の内容で、3月末の開催を予定している旨の事務連絡を行った。

以 上